

UTOカシミヤの海外展開が本格的に始動。
まずは英国、ロンドンサビルローの超名門店からスタート。

ロンドンのサビルローの超名門店、ハンツマン&メイソン&サンズから。長年の念願だった海外展開が始まりました。

スイスに本部がある紳士服店では、スイス三大都市での開始が間近。オーストラリアのシドニーのお店は4代目という老舗。TSUTAYA上海店はコロナで中断していましたがこの秋から再開、台湾の台北店でもスタートです。香港の有力社とのコラボでアジア、中東の開拓も始まりました。

【英語販売サイトが始動】

オープンしたばかりでまだ広告もやっていない英語ECサイトにアメリカのサンフランシスコとマサチューセッツ州の方からオーダーが入り、幸先が良いとみなで大喜び。

次のお客様はアメリカのバーモント州からという。バーモント州ってどこと、不勉強にグーグルマップの出番です。

ネットでご注文を頂いたら次は商品の発送です。慣れない貿易業務に大わらわ。やつと DHL さんにお渡ししてひと安心。失敗続きでも新しい仕事にやりがいと期待が高まります。

【免税店・UTOカシミヤショップ】

青山表参道は銀座に続くファッション街として連日インバウンドの外国人の旅行者で賑わっています。表参道にほど近い骨董通りのUTOのオフィスにあるシヨールーム兼ショップが免税店としての登録ができました。

突然外国からのお客様が来店されることも多くなりました。一応は予約制にさせて頂いています。が、突然のお客様でももちろん大歓迎です。

「外国からよくこんなビルの6階まで来て頂いた」と感激ですが、この頃はスマホのナビがあるので気楽に来店くださいます。便利になったものです。

みなさん日本での滞在時間が短くオーダーが出来ないことをとつても残念がついていますが、楽しんで現物を手にとつて、試着されます。そして、本当に嬉しそうに帰られる様子にこちらも嬉しくなります。

日本へ旅行に行く計画で、最初からUTOへ来てくださる予定だったというフィンランドからのお客様は、ムーミンの切手をプレゼントにもつてきてく



だきました。一同大感動。

これを機にカシミヤショップとして一層頑張ります。

【カシミアニットのアップサイクル】

眠っているカシミアの引取り実施中

現在の総寄付枚数…四〇枚

新サービス！新調できるクーポン発行

色々な事情で「眠っている、UTOのカシミアニット」を皆様からご寄付いただき（カシミア100%という素性が明快なUTOのカシミア製品に限定させて頂いています）、その原料を元にバージンのカシミア原料も加えてUTOでカシミア100%のセーターにするアップサイクルする企画です。

寄付いただいた方へ「寄付証明書」に加えて、「新調の後押しになれば」と願いを込めて「新調」の際にご利用できる「クーポン（20%OFF）」もお送りさせていただきます。

世界初ともいえる、カシミアのアップサイクルにご協力くださいませ！



写真：吉田

【青山・表参道界限】

UTOはこんな街から発信しています

青山・表参道界限の三十年（V）

青山の官営住宅は高級マンションに

カシミアおやじの

この三〇年間、骨董通りをはじめ青山通り、みゆき通り等の表通りは大幅に変わった感じはありませんが、内側の住宅街は随分と変わりました。経緯はあまり知りませんが南青山には役所や大企業のかかり広い土地と施設がありました。

現在の当社が入るたつむら青山ビルは骨董通りに面していますが、後ろには福井県の宿泊施設がありました。今はグレースリアという商業施設になりましたが、大家さんは今でも福井県で福井県のショップもあります。

その向かいに二年ぐらい前、港区こども家庭支援センターという港区の施設が出来ましたが、元々ここには農水省の寮と宿泊施設がありました。その裏に当たる処にOCADAという人気のレストランがありますが、ここには日本郵船の建物がありそれを改装して使用しているようです。福井会館の斜め前には森のような中に日立の研究所があり友人が通っていました。ここは高級マンションになりました。

骨董通りの奥に岡本太郎のアトリエ兼自宅が

あり記念館になっていますがその後は建設省の、その奥は大蔵省の敷地でしたが両方とも現在は超高級マンションです。ここから表参道方向に進むとNHK青山荘があります。以前は喫茶もあったのですがこの頃は一般客は受け入れていないようです。

みゆき通りを渡って南青山四丁目に入るとフロラシオン青山という文部省関係の宿泊所がありました。こちら辺ではかなり広大な敷地ですが二〇一四年に閉館しました。その後長い間空き地でしたが現在は工事中です。これもマンションになるようです。

このフロラシオンの角を南へ進むと日銀の青山家族寮が現在もあります。

太平洋戦争前後の頃の青山は都心の外れで、土地が安い頃にお役所や大企業が取得したのでしゅう。その土地が、日本の高度成長に伴う東京の大発展でまさに一等地になってきたために「高級住宅街に格安で住んでいるのはけしからん」などと攻撃の矢面に立たされたのでしゅう。時代の変遷を感じます。



メンズ:

ふわふわウオッシュブルシルク100%
Vネックカーディガン
1132-2001 ¥57,200(税込)

汗やベタつきもすばやく吸収・発散してくれるので、夏でもさらりと快適に。蒸れや汗冷えの心配ありません。



レディース カシミア100%
ボトルネックベスト
1117-1341 ¥79,200(税込)

程よい厚みの7ゲージのニットベスト。前後差をもたせた裾はサイドに深いスリットを入れ、レイヤードスタイルを楽しめるデザインに。シャツやリブニットを合わせてバリエーションをつけて着回せます。



カシミア100% メンズ
四つ衿 ハイネックセーター
1247-1204 ¥85,800(税込)

独特のなめらかさと素肌に着たいほど滑らかでふっくらした柔らかさは“包容力のある温かさ”を生み出し、ボックスシルエットのリラックスした着用感でデイリーにご使用いただけます。

カシミアとニットの話 * (七十六)

UTO は世界へ

ロンドンの老舗店が感激してくれたUTO カシミア

(セールスマネージャー：片山俊輔)

創業三〇年が過ぎ、「UTO は世界一のカシミアニットを作っているんだから世界へ出よう」と、ついに世界に挑戦することになりました。

「品質は世界」「パーソナルなニットのサイズオーダーもオリジナル」と自信がありました。特にニットの商品とビジネスを理解してもらえなか。特にニットのオーダーは世界でも例がなく、言葉より図で説明と、資料作りに工夫を凝らし準備しました。

プレゼンの機会をいただけた相手は、十九世紀からスウィット発祥の地・ロンドンのサビルローにあり、エドワード八世、ロナルドレーガン元アメリカ大統領、ファッションだとココ・シャネル、ユベール・ド・ジバンシイなどそうそうたるお客様を顧客にもつ「ハンツマン」という、超名門の高級紳士服店です。

格調高いお店の前に立つとやはり緊張いっぱい。ドキドキで初めての海外営業が始まりました。

初めましての挨拶もそこそこに迎え入れてくださったのは、現場トップのクリエーティブマネージャー・キャンベル氏。

まずUTO のカシミアのセーターを手にとって、開口一番「こんなしっかりしたセーターは見たことない。」と感激しきりで、素材・つくりなど一つずつ説明すると、その度に「そっだね。品質を見ればわかる。」と言いついてはかりです。



ましてや、カシミアニットをカスタムオーダーで作ってくれるなんて、とさらに感激。一枚一枚自社工場で作っていて、自然乾燥の写真をみて乾燥にまでケアをしているモノづくりに感嘆の様子で「さすがは日本のモノづくり。この前スタートした日本のネクタイブランドも同じだった。すぐにでも商売を始めたい」と、トントン拍子で話が進みました。

「ヨーロッパの仕入は最低発注枚数が厳しく在庫リスクがあり、追加生産は受け付けられないのが当たり前。さらに、比較的薄手のカシミアセーターなので穴があいたり腐れて返品になることもあることも悩みの種だったそうです。そんな中で、「丈夫で洗えるカシミアセーターを、

一枚でも作ってくれて、送料さえ払えば二〜三週間で作ってくれる。毎年世界中を回って探しているがそんなブランドを初めて知った」と言いつて頂き、私の当初の危惧はすつ飛んでしまいました。

UTO が創業した一九九〇年ごろ英国のカシミアは今の日本と同じしつかりした糸が主でしたが、その後イタリアの台頭でフワリとした甘目になってしまったようです。

日常的に側にある自社のカシミアニットの「風合い」を想像以上に評価してもらったことに私は驚いて、創業者の宇土が常々、「UTO カシミアは購入し着用してご自分で洗濯して3〜4年ぐらいしたところに一番風合いが出るように詰め

気味にして硬めに編んでいるので、店頭でお客様が手に取った時にヨーロッパの製品の方がより軽くフワリしていると言われるかもしれないけど、長年着用してもらえば必ずわかってもらえる」と言っていたことを思い出し、今回の経験で腑に落ちました。

日本ではUTO のビジネスを理解して

もらうのがあんなに大変だったのに、初の海外営業でしかも英国の超有名店から高い評価を受けて取引が始まり大成功ですが、それ以上にUTO のモノ作りに自信をもてたことが何よりもの収穫でした。

その後、ハンツマンのニューヨーク支店でもやりたいという依頼があり、アメリカへの足がかりが出来ました。さらにサビルローに出店しているスイスの高級店からもオファーがありロンドンのお店とチューリッヒ、ジュネーブ、バーゼルというスイスの三大都市での展開も進んでいます。

「日本」は日本中から、世界一なら世界中からお客様が来てくれる」は宇土の口癖ですが、日頃から世界一を目指して日々モノ作りをしているUTO は「世界中にお客様がいらつしやる」と、自信をもって言えるよう今後もメイドインジャパンのカシミアを世界に展開したいと思っています。

スイスの
グリンデルワルドに
行きたい！



「旅行が好きで旅行屋になったんでしよう。本当の旅行は人様を案内するより自分で好きな処に行くことでしょ！うちの会社に入ったら自分の思った旅行ができるよ」という殺し文句で旅行屋からニット屋になってしまいました。

スイスの中央部インターラーケンという街から登山電車に乗ってゴトゴと約一時間、スイスアルプスの名峰アイガーの麓の村、グリンデルワルドに着きます。旅行屋の時に五〜六回訪れたスイスの大好きな村です。ニット屋になって四十年経ちますが、あのグリンデルワルドには一回も行けていません。

ファッション関係のツアーはイタリアとフランスを訪れる日程を作ることが多くありました。

時間が詰まっていると飛行機で一っ飛びということもありましたが、ヨーロッパの街は土日はお店が開いてないことが多いしもちろん会社もやっていないので、貴重な旅行日程の土日の時間を過ごすのには、ヨーロッパの国際列車でアルプス越えをしてスイスアルプスの緑の村をお勧めしていました。

せっかくスイスに行くのだからジュネーブやチューリッヒのような大都会ではなく、ハイジの舞台のような緑に覆われたグリンデルワルドのような村が旅の緊張感や疲れを癒してくれると思うからです。

ヨーロッパカンタータという世界的な若者の音楽祭に参加した神戸の女性コーラスの生徒たちともここを訪れました。

ヨーロッパ最高点のユングフラウヨッホに登ったりする醍醐味も味わえますが、夏でも真っ白な雪に覆われたアルプスの山々を背景に高山植物のお花畑をハイキングしたり緑の牧場でのんびり過ごすことは命の洗濯になります。

何よりも自分が行きたいのが一番なのですが、提案して反対されたことは一度もありません。

UTO を創業し三十年も経ちますが、自分の甲斐性がない為に海外旅行に行く余裕は全くありませんでした。会社を手伝ってくれている、カミさんもグリンデルワルドへは行ったことがあるので、「余裕が出来たらあのスイスのグリンデルワルドにゆっくり行ききたいね」と、四十年以上も同じ話をしてきました。

温暖化の為に日本の夏の強烈な暑さのこの頃は特に思います、死ぬまでには何とか実現したいと。

想いでのホテルを旅する(七十六)

元 旅行屋のお勧め ファイレンツェ・イタリア

カールトンホテル ファイレンツェ

花の都ファイレンツェ！この街は一九七〇年代八〇年代に何度も訪れましたがこのカールトンホテルは七三年に初めてファイレンツェを訪れた時に泊まったホテルです。

このホテルは現在、ホテル・NHファイレンツェという名前の四星ホテルとして今も営業しているようです。

ホテルの前に広いカシーネ公園があり、アルノ川河畔の散歩にはもってこいのホテルです。ファイレンツェの市街はもちろんですが、街を沿々と流れるアルノ川に特別に魅力を感じました。

雲仙普賢岳が噴火した時、火砕流や噴石が麓の有明海にまで達するぐらいに急峻な島原で生まれ育った者にとつて、ゆつたりと流れるアルノ川はヨーロッパそのものでした。

ホテルから街の中心部へ行く時にはいつもアルノ川が目印で、ホテルを出てアルノ川沿いを歩いて、橋の上に宝石店などのお店が並ぶボンテ・ヴェッキオまで行き、そこから広い通りを行くとシニョリア広場に突き当たります。サンタマリア・デル・フィオーレ（花の聖母寺）の大きなドームが目印です。コンパクトで初めての人にもわかりやすい路です。

歴史で教わった芸術の都は、メディチ家の本拠地としてルネッサンスの花開いた都市のファイレンツェはもっと大きな街だと勝手に想像していましたが「こんなに小さな街がヨーロッパの歴史を作ったんだ」と驚きでした。

カールトンホテルから、アルノ川に掛かるボンテヴェッキオの間にエクセルシオールとグランドの豪華ホテルが向かい合っていました。今はザ・ウェスティン・エクセルシオールとセントレジス・ファイレンツェという名前に変わっているようですが、どちらもラグジュアリーホテルで通るたびに通りから垣間見える豪華さに圧倒されていました。



いつかどちらかに絶対に泊まるぞ！と密かな決意をしながら前を通り過ぎていました。今だったら平気で中に入ってお茶でも飲んで様子をうかがうところですが、とうとう入ることがなかった初心だった当時が懐かしく想い出されます。

ファイレンツェの市街地はぎつしりと石造りの建物が続く、有名な花の聖母寺の大伽藍をはじめウフィツィ美術館などヨーロッパの歴史や芸術に圧倒されて興奮した頭の整理がつかないままこのアルノ川畔を歩いていると、一人乗りや二人乗りのボートがのんびりと行き交います。時々教会の鐘の音がアルノ川を渡ってくる。こんな光景になんだかホッとさせられました。